

施策番号	2602		
施策名	あらゆる災害による被害を最小限に抑える消防活動体制の充実強化		
概要	火災などの災害から市民生活を守るため、消防隊等の活動能力の向上、指令管制の高度化などにより、消防活動体制を充実強化する。		
担当局・部室	消防局・警防部	共管局・部室	
上位政策	26 消防・防災		
施策に関する 主な分野別計画等	京都市消防局震災消防水利整備計画		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		平成 30年度	令和 元年度	令和2年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウェイト
1	住宅火災1件当たりの焼損面積（㎡）	c	d	28.6	14.5	15	103.3%	a	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
客観指標総合評価		c	d					a	

2 市民生活実感評価

設問		平成 30年度	令和元年度						令和 2年度 ※
			評価	そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	
1	消防署は、火災や事故などが発生した場合に適切に対応し、いざというときに頼りになる。	a	a	166 25.5%	343 52.6%	113 17.3%	19 2.9%	11 1.7%	652 -
2	-	-	-						-
3	-	-	-						-
4	-	-	-						-
5	-	-	-						-
市民生活実感調査総合評価		a	a						-

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査を一時休止しています。

<総合評価>

平成30	B	令和元	C	令和2	A	施策の目的が十分に達成されている
重み付け	☒ 客観指標 ☐ 市民の実感	消防・防災施策については、市民にとって平常時には実感を得にくいものであることから、客観指標を重視する。				

<原因分析>

客観指標総合評価

- ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。
☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。

市民生活実感調査総合評価

- ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。
☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>（令和元年度又は令和2年度新規事業）

	事業名	事業費の状況(千円)		令和2年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		令和元年度 決算額	令和2年度 予算額		
1					
2					
3					
4					
5					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・住宅火災における焼損面積の更なる減少を目指し、住宅用火災警報器の設置や適切な維持管理の指導及び119番通報や初期消火の要領についての啓発など、火災発生時における早期発見・通報・初期消火に効果のある取組を継続して実施する。
- ・消防活動総合センターでの訓練等を通じて水槽車を活用した消防活動戦術の更なる錬成を図る。
- ・消防車両の火災現場への到着をより確実・迅速にするため消防隊等の緊急走行訓練を実施する。
- ・焼損面積が大きくなりやすい木造建物密集地域に対して実地踏査による実態把握を行うとともに、京都らしい街並みを有する地域への新たな出動計画を策定・運用する。

施策名	2602	あらゆる災害による被害を最小限に抑える消防活動体制の充実強化				
指標名	住宅火災 1 件当たりの焼損面積（㎡）					
担当課	消防救助課		連絡先	2 1 2－6 7 3 2		
1 指標の説明						
住宅火災 1 件当たりの焼損面積（平方メートル）						
2 指標の意味						
火災による死者数ゼロに向けた火災発生時の市民の初動活動（発見・通報・初期消火）と消防隊の活動の効果を示す指標						
3 算出方法・出典等						
算出方法：住宅火災の焼損面積の合計÷住宅火災の件数 出典：事業担当課調べ						
4 数値						
	前回数値 平成30年	最新数値 令和元年	推移	目標値		
				数値	根拠	達成度
数値	28.6	14.5	14.1㎡減	15	住宅火災焼損面積の推移等から算出	103.3%
	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値	-			-		
5 評価基準						
住宅火災1件当たりの焼損面積が a：15㎡以下 b：15㎡超～21㎡以下 c：21㎡超～28㎡以下 d：28㎡超～34㎡以下 e：34㎡超						
6 基準説明						
・目標値を達成すればa評価 ・過去5年の最大値34㎡（34.2㎡）を超えればe評価 ・その間を等分してb～d評価						
7 評価結果						
平成30	令和元	令和2				
c	d	a				